

宮城同友会 50周年に向けて仲間の輪を拡げよう! vol.9

Welcome 同友会 12/6 (水) 報告者: (株)コンパス・ファクトリー 代表取締役 板橋満彦氏 (宮城野支部) 参加者: ゲスト2名含む計6名

廃業する木工所を引き継ぐ形で弟と共に創業した板橋氏。リーマンショックの最中に立ち上げたため理念や計画もなく、必死にモノづくりだけに専念していました。同友会には同業から紹介され入会しましたが、紹介者以外の知り合いもなく活動には参加していませんでした。しかしメイン顧客が買収され会社経営に危機感を感じていた時、当時の宮城野支部長が会社訪問してくれたことをきっかけに同友会活動に参加するようになりました。創る会を受講して自身の経営姿勢の甘さを痛感し、月次決算の実施と社員公開、社内課題をテーマ別に分け社員が参画する委員会制度を実施するなど社員も徐々に主体性を持って動くようになりました。異業種との関わりから広い視野でリアルな社会を見せてくれる場所が同友会であると語りました。

12/13 (水) 報告者: サンウッドハウジング(株) 代表取締役 鈴木 健蔵氏 (柴田支部) 参加者: 新会3名含む計13名

父の経営する工務店に入社した鈴木氏は、2004年に同友会に入会、翌年第16期経営指針を創る会を受講しました。現在の柴田支部は当時の白石蔵王支部に属されており、同支部から5名がこの年経営指針を創る会を受講しました。その後会社を畳むという結果になった時にもあらゆる面で支えてくれたのが経営指針を創る会の同期生の存在だったそうです。心機一転、2011年から現在のサンウッドハウジングを大河原で創業し、不動産売買・賃貸を中心に仙南地域に根差してこられました。

参加者からは、「赤裸々な体験報告に驚きましたが、同友会の仲間意識の強さを知ることができました」などの感想が挙がりました。なお、今回は鈴木氏の本社2Fにある同友会事務局県南センターをサテライト会場に welcome 同友会を開催しました。

12/20 (水) 報告者: (株)ファミリーメイト 代表取締役 安藤真史氏 (泉支部) 参加者: 新会員1名、含む計6名

2007年に取引先から誘われ同友会に入会。当時は専務の立場であり、日中は現場に出て業務に従事し、夜には雑務をこなす毎日でした。入会翌年、経営指針を創る会に参加。それ以前は仕事の本質は単に綺麗にすることだと考えていましたが、掃除の歴史や日本の清掃文化について深く学び、掃除の楽しさや大切さを理念として掲げて事業を展開しています。

今年度は新卒採用活動を担当する共同求人委員会に参加し、採用だけでなく若手社員の育成にも取り組んでいます。また同友会の最大の魅力は、会歴に関係なく対等な立場で意見交換ができること。ぜひ本音で話せる仲間を見つけてほしいと語りました。

中同協第56回定時総会 in 宮城実行委員会 presents

成長と変革特別学習会 COLUMN

「社員が人生をかける価値のある会社を目指して
～新卒採用は企業成長を加速させる～」

(株)EVENTOS 代表取締役

川中 英章氏 (広島同友会 / 中同協共同求人委員長)

事業概要: 各種ケータリングサービス、飲食店、ワインショップ、産直市場、地域活性化事業



同友会入会前は地元広島でケータリング事業を中心に事業を拡大させていましたが、外部環境の影響から、業績が低迷、社員の大量退社もありました。そんな背景から同友会には、社員の採用を目的として入会します。入会後は、先輩会員から様々な事を学び実践されていきます。2020年の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、本業のケータリング事業が大打撃を受け、売上高の95%が無くなります。しかし、その間に、社員と共に事業定義、社員共育について見直しを行い、現在は島根県の有福温泉の復興にも尽力されています。

社員が人生をかける価値のある会社を目指すには、3つのポイントがありました。1つ目は、経営者の覚悟です。会社は誰のためのもので、何を実現させるために存在しているのか。例えば、社長の飲食・ゴルフ代、高級車は本当に会社で計上するものなのか、社長が会社を私物化していないか。2つ目は、会社の夢と社員の夢が重なるようなビジョンを確立させること。社員は社員である前に一人一人の人生があり、生きる目的がある。その目的と会社が実現させたい事が重なった時に、社員は「この会社で働いていこう」という誇り

を持てるのではないだろうか。経営公開している中には、「理念費」という科目があり、会社と社員の夢が実現するために必要な将来の投資が明確に示されています。3つ目は、継続することです。外部環境に左右されることなく、自社事業の価値を深め広く発信し、新卒採用を継続しています。

今回の報告では、採用に留まらない事業づくり、人づくり、地域づくりという総合的な経営実践の報告となりました。

私は、「誰もが会社を良くしたい、良い商品をお客様に届けたいと考えているはずだが、本当にそう思っているのか。毎年変わらない社員数で新しい商品を生み出し、より沢山のお客様に届けられるはずがない。新卒採用をするからこそ、それができる。新卒採用をしないという事は、自社を本当に良くしたいと思っていない経営者の気持ちの表れではないか」という言葉が印象に残りました。宮城の共同求人委員会も採用だけでなく、総合的な実践に繋がるような委員会をめざしていきます。

[寄稿 / 座長 粕川利史氏]